

## 【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の5 第1項の表の第1号
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2025年11月11日
【中間会計期間】	第78期中(自 2025年4月1日至 2025年9月30日)
【会社名】	ピーエス・コンストラクション株式会社
【英訳名】	PS Construction Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長執行役員 森 拓也
【本店の所在の場所】	東京都港区東新橋一丁目9番1号
【電話番号】	(03) 6385-9111(代表)
【事務連絡者氏名】	経理・財務部長 平野 俊也
【最寄りの連絡場所】	東京都港区東新橋一丁目9番1号
【電話番号】	(03) 6385-9111(代表)
【事務連絡者氏名】	経理・財務部長 平野 俊也
【縦覧に供する場所】	ピーエス・コンストラクション株式会社 大阪支店 (大阪市北区天満橋一丁目8番30号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第77期 中間連結会計期間	第78期 中間連結会計期間	第77期
会計期間	自2024年4月1日 至2024年9月30日	自2025年4月1日 至2025年9月30日	自2024年4月1日 至2025年3月31日
売上高 (百万円)	64,851	73,051	135,627
経常利益 (百万円)	5,738	6,800	12,252
親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益 (百万円)	3,733	4,363	8,217
中間包括利益又は包括利益 (百万円)	3,429	4,764	7,971
純資産額 (百万円)	54,381	60,232	57,880
総資産額 (百万円)	117,286	135,799	130,836
1株当たり中間(当期) 純利益金額 (円)	79.99	93.27	175.92
潜在株式調整後1株当たり 中間(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	46.4	44.4	44.2
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	5,671	10,504	15,952
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	472	460	807
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	5,844	860	4,206
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高 (百万円)	10,522	11,953	22,100

- (注) 1. 当社は中間連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 当社は「役員報酬BIP信託」を導入しております。当該信託が保有する当社株式については、自己株式として計上しております。1株当たり中間(当期)純利益金額の算定上、「普通株式の期中平均株式数」の計算において控除する自己株式数に含めております。

#### 2【事業の内容】

当中間連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、当中間連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況

- 中間連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当中間連結会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1)財政状態及び経営成績の状況

当中間連結会計期間における我が国経済は、米国の関税政策等の外的要因により輸出環境に不透明感が生じたものの、企業の設備投資は底堅く推移いたしました。加えて、物価上昇率の鈍化や過去最高額となる最低賃金の引上げ、ならびに観光・インバウンド需要の拡大に伴うサービス消費の増加などにより、個人消費は持ち直しの動きが見られます。先行きについては、外需の下振れ圧力が強まる中であっても、国内経済は一定の回復基調を維持するものと見込まれております。

当社グループが属する建設業界におきましては、民間設備投資が底堅く推移し、都市部を中心に建築市場は堅調な動きを見せております。また、防災・減災および国土強靭化に向けた公共投資が継続されており、土木市場は安定した事業機会が確保されています。一方で、物価の高騰に加え、資材費および労務費の上昇傾向が続いており、人手不足の影響も顕在化しております。

このような経営環境のもと、当社グループにおきましては「中期経営計画2025（2025年度～2027年度）」を策定し、「PC技術を中心とした高度な技術力により、地球にやさしく安全で快適な社会の実現に貢献する」ことを当社の目指す姿として掲げ、将来を見据えた事業活動に鋭意取り組んでおります。

この結果、当中間連結会計期間の業績は、受注高750億円（前年同期比6.7%減）、売上高730億円（前年同期比12.6%増）となりました。

利益につきましては、営業利益68億円（前年同期比19.0%増）、経常利益68億円（前年同期比18.5%増）、親会社株主に帰属する中間純利益43億円（前年同期比16.9%増）となりました。

当中間連結会計期間の受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

区分	前中間連結会計期間		当中間連結会計期間		比較増減( )	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	増減率(%)
土木事業	43,711	54.4	34,426	46.0	9,284	21.2
建築事業	29,929	37.2	35,154	46.8	5,224	17.5
関係会社事業	6,561	8.2	5,280	7.0	1,280	19.5
その他事業	201	0.2	185	0.2	15	7.8
合計	80,404	100.0	75,047	100.0	5,356	6.7

報告セグメントの業績は、以下のとおりであります。

#### (土木事業)

売上高365億円（前年同期比12.2%増）、セグメント利益70億円（前年同期比19.8%増）となりました。

#### (建築事業)

売上高317億円（前年同期比25.8%増）、セグメント利益28億円（前年同期比7.2%増）となりました。

#### (関係会社事業)

売上高98億円（前年同期比5.9%減）、セグメント利益21億円（前年同期比16.8%増）となりました。

#### (その他事業)

売上高2億円（前年同期比0.4%増）、セグメント利益0億円（前年同期比0.7%増）となりました。

なお、当中間連結会計期間より、報告セグメントを従来の「土木事業」、「建築事業」、「製造事業」、「その他兼業事業」の4区分から、「土木事業」、「建築事業」、「関係会社事業」、「その他事業」の4区分に変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1. 中間連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」をご覧ください。

当中間連結会計期間末における流動資産は1,096億円となり、前連結会計年度末に比べ50億円増加いたしました。これは主に受取手形、完工工事未収入金及び契約資産等が130億円、未収入金が14億円増加したことによるものであります。固定資産は261億円となり、前連結会計年度末に比べ1億円減少いたしました。これは主に機械、運搬具及び工具器具備品が2億円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は1,357億円となり、前連結会計年度末に比べ49億円増加いたしました。

当中間連結会計期間末における流動負債は673億円となり、前連結会計年度末に比べ56億円増加いたしました。これは主に支払手形・工事未払金等が39億円、短期借入金が35億円増加したことによるものであります。固定負債は81億円となり、前連結会計年度末に比べ30億円減少いたしました。これは主に長期借入金が30億円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は755億円となり、前連結会計年度末に比べ26億円増加いたしました。

当中間連結会計期間末における純資産は602億円となり、前連結会計年度末に比べ23億円増加いたしました。これは主に利益剰余金が19億円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は44.4%（前連結会計年度末は44.2%）となりました。

## (2)キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末と比べ101億円減少し、119億円となりました。

当中間連結会計期間末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、使用した資金は105億円（前年同期は56億円の獲得）となりました。これは主に売上債権、仕入債務の増加、契約負債の減少によるものであります。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は4億円（前年同期は4億円の使用）となりました。これは主に工場施設・機械の更新による有形固定資産の取得によるものであります。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、獲得した資金は8億円（前年同期は58億円の使用）となりました。これは主に短期借入金の増加によるものであります。

## (3)会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

## (4)優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当中間連結会計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

## (5)研究開発活動

当中間連結会計期間におけるグループ全体の研究開発費の金額は、3億円であります。

なお、当中間連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 3 【重要な契約等】

当社は、設備の更新、増強、自動化に加え、製造技術の開発、コストダウンを速やかに進めるため、2025年9月26日開催の取締役会において、当社の連結子会社であるピー・エス・コンクリート株式会社を吸収合併することを決議し、同日付けで両社は合併契約を締結しました。

#### (1) 合併の方法

当社を存続会社とし、ピー・エス・コンクリート株式会社を消滅会社とする吸収合併であります。

#### (2) 合併期日

2026年4月1日（予定）

#### (3) 合併に際して発行する株式及び割当

当社の完全子会社との合併であるため、本合併による新株の発行及びその他金銭等の割当てはありません。

#### (4) 引継資産・負債の状況

当社は、効力発生日におけるピー・エス・コンクリート株式会社の全ての資産及び負債並びに権利義務の一切を承継します。

なお、ピー・エス・コンクリート株式会社の2025年3月31日現在の資産・負債の状況は次のとおりです。

資産合計：3,871百万円

負債合計：2,639百万円

#### (5) 吸収合併存続会社となる会社の概要

名称 ピーエス・コンストラクション株式会社（当社）

資本金 4,218百万円

事業内容

- ・プレストレスト・コンクリート工事の請負ならびに企画、設計、施工監理
- ・土木一式工事、建築一式工事の請負ならびに企画、設計、施工監理
- ・土木建築構造物の維持、補修に関する事業
- ・プレストレスト・コンクリート製品およびプレキャスト・コンクリート製品の製造、販売ならびにそれらの製造用具および附属資材部品の製作、販売
- ・不動産の売買、賃貸およびそれらの仲介ならびに所有管理

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	110,000,000
計	110,000,000

###### 【発行済株式】

種類	中間会計期間末 現在発行数(株) (2025年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2025年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	47,486,029	47,486,029	東京証券取引所 プライム市場	完全議決権株式 であり、権利内 容に何ら限定の ない当社におけ る標準となる株 式 単元株式数 100株
計	47,486,029	47,486,029	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2025年4月1日～ 2025年9月30日	-	47,486,029	-	4,218	-	8,110

( 5 ) 【大株主の状況】

2025年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式 を除く。) の総数に対 する所有株 式数の割合 ( % )
大成建設株式会社	東京都新宿区西新宿一丁目25番1号	23,790	50.19
U B E 三菱セメント株式会社	東京都千代田区内幸町二丁目1番1号	4,406	9.29
日本マスター トラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区赤坂一丁目8番1号	2,099	4.42
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 太平洋セメント口 再信託受託者 株式会社日本カストディ銀行	東京都中央区晴海一丁目8番12号	1,382	2.91
住友電気工業株式会社	大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号	910	1.92
岡山県	岡山県岡山市北区内山下二丁目4番6号	839	1.77
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	799	1.68
日本マスター トラスト信託銀行株式会社(役員報酬B I P信託口・75949口)	東京都港区赤坂一丁目8番1号	574	1.21
ピーエス・コンストラクション取引先持株会	東京都港区東新橋一丁目9番1号	547	1.15
J P モルガン証券株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目7番3号	443	0.93
計	-	35,793	75.52

- (注) 1. 所有株式数は、千株未満を切捨て表示しております。また、発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合は、表示単位未満の端数を切捨て表示しております。
2. みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 太平洋セメント口 再信託受託者 株式会社日本カストディ銀行の所有株式は、太平洋セメント株式会社が所有していた当社株式をみずほ信託銀行株式会社に信託したものが、株式会社日本カストディ銀行に再信託されたもので、議決権は太平洋セメント株式会社に留保されております。
3. 所有株式数の割合を算出するために発行済株式から除く自己株式には、取締役等に対する業績連動型報酬制度の信託口である日本マスター トラスト信託銀行株式会社(役員報酬B I P信託口・75949口)が保有する当社株式(574,548株)は含まれておりません。
4. 当中間会計期間末現在における、日本マスター トラスト信託銀行株式会社及び株式会社日本カストディ銀行の信託業務の株式数については、当社として把握することができないため記載しておりません。

( 6 ) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2025年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 91,600	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式 単元株式 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 47,345,200	473,452	同上
単元未満株式	普通株式 49,229	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式 1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	47,486,029	-	-
総株主の議決権	-	473,452	-

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の「株式数」欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,100株及び役員報酬BIP(Board Incentive Plan)信託が所有する株式574,500株が含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義及び同信託名義の完全議決権株式に係る議決権の数がそれぞれ21個、5,745個含まれております。

2. 「単元未満株式」の「株式数」欄には、当社所有の自己株式28株が含まれております。

【自己株式等】

2025年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ピーエス・コンストラ クション株式会社	東京都港区東新橋一 丁目9番1号	91,600	-	91,600	0.19
計	-	91,600	-	91,600	0.19

(注) 上記の自己保有株式のほか、役員報酬BIP信託にかかる信託口が所有する当社株式574,548株を連結財務諸表上、自己株式として処理しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 中間連結財務諸表の作成方法について

当社の中間連結財務諸表は「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

また、当社は、金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号の上欄に掲げる会社に該当し、連結財務諸表規則第1編及び第3編の規定により第1種中間連結財務諸表を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間連結会計期間（2025年4月1日から2025年9月30日まで）に係る中間連結財務諸表について、有限責任あずさ監査法人による期中レビューを受けております。

## 1 【中間連結財務諸表】

### ( 1 ) 【中間連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金預金	22,100	11,953
受取手形、完成工事未収入金及び契約資産等	74,309	87,327
電子記録債権	760	1,078
未成工事支出金	3,425	3,267
その他の棚卸資産	11,032	11,409
未収入金	2,729	4,199
その他	475	717
貸倒引当金	216	271
<b>流動資産合計</b>	<b>104,616</b>	<b>109,683</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物・構築物	10,866	11,258
機械、運搬具及び工具器具備品	10,019	9,730
土地	8,454	8,441
リース資産	1,558	1,572
建設仮勘定	261	50
減価償却累計額	14,441	14,415
<b>有形固定資産合計</b>	<b>16,718</b>	<b>16,638</b>
<b>無形固定資産</b>		
投資その他の資産		
投資有価証券	3,749	4,516
破産更生債権等	860	288
繰延税金資産	1,540	899
退職給付に係る資産	2,972	2,863
その他	1,179	1,149
貸倒引当金	860	288
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>9,442</b>	<b>9,429</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>26,220</b>	<b>26,116</b>
<b>資産合計</b>	<b>130,836</b>	<b>135,799</b>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形・工事未払金等	18,077	21,994
電子記録債務	5,746	8,945
短期借入金	2 9,500	2 13,000
1年内返済予定の長期借入金	2 4,360	2 7,260
未払法人税等	2,949	2,203
契約負債	13,475	8,651
賞与引当金	975	982
完成工事補償引当金	130	89
工事損失引当金	35	21
預り金	3,046	2,175
その他	3,446	2,066
<b>流動負債合計</b>	<b>61,742</b>	<b>67,388</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	2 4,700	2 1,620
再評価に係る繰延税金負債	1,250	1,250
役員退職慰労引当金	183	199
株式報酬引当金	276	253
退職給付に係る負債	3,345	3,417
資産除去債務	317	318
その他	1,140	1,119
<b>固定負債合計</b>	<b>11,213</b>	<b>8,178</b>
<b>負債合計</b>	<b>72,955</b>	<b>75,567</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	4,218	4,218
資本剰余金	8,110	8,110
利益剰余金	41,992	43,967
自己株式	431	474
<b>株主資本合計</b>	<b>53,890</b>	<b>55,823</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	1,537	2,085
土地再評価差額金	1,838	1,856
為替換算調整勘定	139	252
退職給付に係る調整累計額	753	718
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>3,989</b>	<b>4,409</b>
<b>非支配株主持分</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>純資産合計</b>	<b>57,880</b>	<b>60,232</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>130,836</b>	<b>135,799</b>

(2) 【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

【中間連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	64,851	73,051
売上原価	54,362	60,842
売上総利益	10,488	12,209
販売費及び一般管理費	4,741	5,372
営業利益	5,747	6,836
営業外収益		
受取利息	1	13
受取配当金	51	78
持分法による投資利益	25	12
受取ロイヤリティー	20	9
スクラップ売却益	17	10
償却債権取立益	25	-
その他	35	33
営業外収益合計	177	159
営業外費用		
支払利息	104	119
為替差損	14	2
支払保証料	44	48
支払手数料	20	19
その他	1	5
営業外費用合計	185	195
経常利益	5,738	6,800
特別利益		
固定資産売却益	12	19
特別利益合計	12	19
特別損失		
固定資産除売却損	2	48
ゴルフ会員権売却損	4	-
投資有価証券評価損	15	-
減損損失	-	61
その他	6	0
特別損失合計	29	110
税金等調整前中間純利益	5,722	6,708
法人税等	1,989	2,345
中間純利益	3,733	4,363
非支配株主に帰属する中間純利益又は非支配株主に 帰属する中間純損失( )	0	0
親会社株主に帰属する中間純利益	3,733	4,363

【中間連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	3,733	4,363
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	329	548
為替換算調整勘定	29	60
退職給付に係る調整額	39	34
持分法適用会社に対する持分相当額	36	51
その他の包括利益合計	303	401
中間包括利益	3,429	4,764
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	3,429	4,764
非支配株主に係る中間包括利益	0	0

( 3 ) 【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

( 単位 : 百万円 )

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4月 1日 至 2024年 9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4月 1日 至 2025年 9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益	5,722	6,708
減価償却費	545	540
のれん償却額	9	9
持分法による投資損益（　は益）	25	12
減損損失	-	61
退職給付に係る資産の増減額（　は増加）	84	108
退職給付に係る負債の増減額（　は減少）	53	71
工事損失引当金の増減額（　は減少）	470	14
受取利息及び受取配当金	52	92
支払利息	104	119
支払手数料	20	19
固定資産除売却損益（　は益）	10	29
売上債権の増減額（　は増加）	5,591	13,344
棚卸資産の増減額（　は増加）	866	219
仕入債務の増減額（　は減少）	2,619	7,113
契約負債の増減額（　は減少）	3,225	4,824
未収入金の増減額（　は増加）	678	1,470
未払金の増減額（　は減少）	1,301	1,448
預り金の増減額（　は減少）	1,033	870
その他	421	232
小計	<u>7,709</u>	<u>7,750</u>
利息及び配当金の受取額	52	92
利息の支払額	101	113
法人税等の支払額	1,989	2,733
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<u>5,671</u>	<u>10,504</u>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	508	483
有形固定資産の売却による収入	127	74
無形固定資産の取得による支出	141	-
投資有価証券の取得による支出	0	0
その他	50	51
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<u>472</u>	<u>460</u>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（　は減少）	4,300	3,500
リース債務の返済による支出	74	76
長期借入金の返済による支出	180	180
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	1,279	2,369
その他	10	13
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<u>5,844</u>	<u>860</u>
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	42
現金及び現金同等物の増減額（　は減少）	641	10,147
現金及び現金同等物の期首残高	11,163	22,100
現金及び現金同等物の中間期末残高	10,522	11,953

【注記事項】

( 中間連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理 )

・税金費用の計算

税金費用に関しては、主として当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、税引前中間純損失となった場合等には、法定実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(取締役及び執行役員に対する業績連動型株式報酬制度)

当社は、2016年6月28日開催の第68回定時株主総会において、当社取締役及び執行役員（社外取締役及び海外居住者を除く。以下「取締役等」という。）へのインセンティブプランとして、2016年度から業績連動型株式報酬制度（以下「本制度」という。）を導入することを決議しました。本制度は取締役等の報酬と当社グループ業績との連動性をより明確にし、当社の中長期的な業績の向上と企業価値の増大への貢献意識を高めることを目的としております。

信託に関する会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第30号 2015年3月26日）に準じております。

1 取引の概要

役員報酬BIP（Board Incentive Plan）信託と称される仕組みを採用し、当社が拠出する取締役等の報酬額を原資として役員報酬BIP信託により取得した当社株式を各連結会計年度の業績目標の達成度等に応じて当社取締役等に交付します。

2 信託に残存する当社株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度末389百万円及び639,097株、当中間連結会計期間末432百万円及び574,548株であります。

(完全子会社の吸収合併)

当社は、2025年9月26日開催の取締役会において、当社の連結子会社であるピー・エス・コンクリート株式会社を吸収合併することを決議し、同日付けで両社は合併契約を締結しました。

詳細は、「第2 事業の状況 3 重要な契約等」に記載のとおりであります。

(中間連結貸借対照表関係)

1 その他の棚卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
商品及び製品	32百万円	35百万円
仕掛品及び兼業事業支出金	799	1,203
原材料及び貯蔵品	200	170
計	1,032	1,409

2 財務制限条項

(1) 当社は2017年3月28日にシンジケート方式によるコミットメントライン契約を締結しております。

本契約に基づく当中間連結会計期間末の借入未実行残高は次のとおりです。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
コミットメントラインの総額	17,300百万円	17,300百万円
借入金実行残高	-	3,000
借入金未実行残高	17,300	14,300

なお、本契約には下記の財務制限条項が付されております。

経常利益の維持

2017年3月期以降の各年度の決算期における連結の損益計算書上の経常損益に関して2期連続して経常損失を計上しないこと。

(2) 当社の長期借入金8,880百万円（うち、1年内返済予定7,260百万円）のうち、2023年10月に契約した900百万円については下記の財務制限条項が付されております。

純資産の維持

各事業年度の決算期末日における連結貸借対照表における純資産の金額を36,000百万円以上に維持すること。

経常利益の維持

各事業年度の決算期における連結損益計算書に示されるキャッシュ・フローを2,500百万円以上に維持すること。なお、ここでいうキャッシュ・フローとは、経常損益、減価償却費及びのれんの償却費の合計金額から法人税等充当額を控除した金額をいう。

3 偶発債務

当社は、国土交通省中部地方整備局（以下、発注者）より2013年1月21日付で発注され、当社が施工した「2012年度三遠南信19号橋PC上部工事」（以下、本工事）について、発注者より本工事の撤去再構築が必要と判断された場合には、供用開始から10年間に限り、1,669百万円を限度とする瑕疵担保責任を負担しております。

また、瑕疵担保責任を担保するために履行保証を設け、支払承諾契約を締結しております。この契約において下記の財務維持要件に抵触した場合には、発注者から本工事の撤去再構築の通知催告等がなくとも、支払承諾約定に基づく事前求償債権が発生するため、支払承諾者に対して1,669百万円を限度とする事前求償債権額の支払義務が生じます。

純資産維持

2015年3月期決算期末日以降の各年度の決算期末日において、連結の貸借対照表における純資産の部の合計金額を当該決算期の直前の決算期の末日または2014年3月期の末日の連結の貸借対照表における純資産の部の合計金額のいずれか大きい方の80%の金額以上に維持すること。

経常利益の維持

2015年3月期以降の各年度の決算期における連結の損益計算書上の経常損益に関して2期連続して経常損失を計上しないこと。なお、2期目の判定については、決算短信等で経常損失見込みとなった時点で、当該要件に抵触するものと判断できるものとする。

(中間連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
従業員給料手当	1,557百万円	1,596百万円
賞与引当金繰入額	209	251
退職給付費用	74	77
役員退職慰労引当金繰入額	25	29
株式報酬引当金繰入額	38	23
のれん償却額	9	9
貸倒引当金繰入額	11	54

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
現金預金勘定	10,522百万円	11,953百万円
現金及び現金同等物	10,522	11,953

(株主資本等関係)

前中間連結会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年6月21日 定時株主総会(注)	普通株式	1,279	27.0円	2024年3月31日	2024年6月24日	利益剰余金

(注) 2024年6月21日開催の定時株主総会による配当金総額には、役員報酬BIP信託が所有する当社株式に対する配当金20百万円が含まれております。

2. 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年11月7日 取締役会(注)	普通株式	1,042	22.0円	2024年9月30日	2024年12月12日	利益剰余金

(注) 2024年11月7日開催の取締役会による配当金総額には、役員報酬BIP信託が所有する当社株式に対する配当金14百万円が含まれております。

当中間連結会計期間（自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2025年6月20日 定時株主総会(注)	普通株式	2,369	50.0円	2025年3月31日	2025年6月23日	利益剰余金

(注) 2025年6月20日開催の定時株主総会による配当金総額には、役員報酬BIP信託が所有する当社株式に対する配当金31百万円が含まれております。

2. 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2025年11月11日 取締役会(注)	普通株式	1,895	40.0円	2025年9月30日	2025年12月12日	利益剰余金

(注) 2025年11月11日開催の取締役会による配当金総額には、役員報酬BIP信託が所有する当社株式に対する配当金22百万円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間（自2024年4月1日 至2024年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	中間連結 損益計算書 計上額 (注2)
	土木事業	建築事業	関係会社 事業	その他 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	32,580	25,265	6,804	201	64,851	-	64,851
セグメント間の内部 売上高又は振替高	24	-	3,670	-	3,694	3,694	-
計	32,604	25,265	10,474	201	68,545	3,694	64,851
セグメント利益 (売上総利益)	5,924	2,670	1,840	60	10,495	7	10,488

(注) 1. セグメント間取引消去によるものであります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の売上総利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な  
内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	10,495
調整額(セグメント間取引消去)	7
販売費及び一般管理費	4,741
中間連結損益計算書の営業利益	5,747

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当中間連結会計期間（自2025年4月1日 至2025年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	中間連結 損益計算書 計上額 (注2)
	土木事業	建築事業	関係会社 事業	その他 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	36,560	31,780	4,508	202	73,051	-	73,051
セグメント間の内部 売上高又は振替高	15	-	5,344	-	5,359	5,359	-
計	36,575	31,780	9,852	202	78,410	5,359	73,051
セグメント利益 (売上総利益)	7,096	2,861	2,148	60	12,167	42	12,209

(注) 1. セグメント間取引消去によるものであります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の売上総利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な  
内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	12,167
調整額（セグメント間取引消去）	42
販売費及び一般管理費	5,372
中間連結損益計算書の営業利益	6,836

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当中間連結会計期間より、報告セグメントを従来の「土木事業」、「建築事業」、「製造事業」、「その他兼業事業」の4区分から、「土木事業」、「建築事業」、「関係会社事業」、「その他事業」の4区分に  
変更しております。

この変更は、事業環境の変化に対応し、マネジメント・アプローチの観点から主力となる土木事業・建築  
事業を軸とした事業セグメントに再編成するものです。

この変更に伴い、従来各セグメントの区分に含まれていた「関係会社事業」は独立したセグメントとな  
り、また、従来の「製造事業」は「関係会社事業」に含まれて報告されます。

なお、前中間連結会計期間のセグメント情報は、当中間連結会計期間の報告セグメントの区分に基づき作  
成したものを開示しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

報告セグメントには配分しておりませんが、当中間連結会計期間における減損損失は61百万円でありま  
す。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前中間連結会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）

(単位：百万円)

	土木事業	建築事業	関係会社事業	その他事業	合計
顧客との契約から生じる収益	32,580	25,265	6,724	-	64,569
その他の収益	-	-	79	201	281
外部顧客への売上高	32,580	25,265	6,804	201	64,851

当中間連結会計期間（自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）

(単位：百万円)

	土木事業	建築事業	関係会社事業	その他事業	合計
顧客との契約から生じる収益	36,560	31,780	4,428	-	72,769
その他の収益	-	-	79	202	282
外部顧客への売上高	36,560	31,780	4,508	202	73,051

(1株当たり情報)

1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
1株当たり中間純利益金額	79円99銭	93円27銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する中間純利益金額 (百万円)	3,733	4,363
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 中間純利益金額(百万円)	3,733	4,363
普通株式の期中平均株式数(千株)	46,673	46,776

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 役員報酬BIP信託が所有する当社株式を、1株当たり中間純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。なお、役員報酬BIP信託が所有する当社株式の期中平均株式数は前中間連結会計期間において720,768株、当中間連結会計期間において617,432株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

### (1) 決算日後の状況

2025年11月11日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議しました。

(イ) 配当金の総額 ..... 1,895,776,040円

(ロ) 1株当たりの金額 ..... 40.0円

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 ... 2025年12月12日

(注) 2025年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

### (2) 重要な訴訟等

特記事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の中間連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2025年11月11日

ピース・コンストラクション株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 森 本 泰 行  
業務 執行 社員

指定有限責任社員 公認会計士 前 田 貴 史  
業務 執行 社員

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているピース・コンストラクション株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の中間連結会計期間（2025年4月1日から2025年9月30日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ピース・コンストラクション株式会社及び連結子会社の2025年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 中間連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から中間連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、中間連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において中間連結財務

諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・中間連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・中間連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠入手する。監査人は、中間連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社(半期報告書提出会社)が別途保管しております。

(注) 2. X B R L データは期中レビューの対象には含まれていません。